

笠ヶ岳山行

山行日：2021年7月16日（金）～18日（日）

班名：ここゆめ班

参加者：K. Y（CL）、Y. S（SL）、Y. S（会計）、J. H、M. K

記述：K. Y

コース：16日

Y. Sさん宅 22：00－かつらぎ西 SA 22：30

17日

新穂高センター4：00－鍋平園地駐車場 4：30－笠新道登山口 6：35－

杓子平 12：10（昼食）－笠新道分岐 14：45－抜戸岩 15：30－笠ヶ岳山荘 16：25

18日

笠ヶ岳山荘－笠ヶ岳頂上－笠ヶ岳山荘 5：55－抜戸岩 6：25－笠新道分岐 7：10

杓子平 8：25－笠新道登山口 11：55－新穂高センター 13：00－ひらゆの森 15：50

Y. Sさん宅 23：30

日本百名山および新・花の百名山、北アルプス笠ヶ岳に登りました。笠ヶ岳は、岐阜県高山市にあり笠を伏せた形をした山です。前方には槍ヶ岳から穂高岳までが一望でき、遠くには富士山まで見ることができる。

【鍋平園地駐車場】

新穂高センターは、新穂高ロープウェイを利用して西穂高、奥穂高、北穂高から槍ヶ岳へのメジャールートと笠新道、小池新道を利用して笠ヶ岳や双六岳を目指すルートがあり大勢の登山者や観光客でにぎわう。朝4時の時点で近隣の駐車所は満車。指示に従い鍋平園地駐車場（無料）へ。ここからセンターまでは、約20分かかる悪路の急な下り坂。



新穂高センター着は、すでに5：20。登山届を提出し、ここから長い一日の始まり。笠新道登山口までは、左俣谷沿いの林道を約1時間歩かなければなりません。

【新穂高センター】



【笠新道登山口】

6:30、ようやく笠新道登山口に到着。
山小屋までの最後の水場です。
大半の登山者は、まっすぐワサビ平の方へ
向かいますが、我々は笠新道へ。
ここから、北アルプス三大急登の始まり。
展望のない樹林帯を足場の悪いジグザグの
登り。向かうのは、杓子平です。



12:10、杓子平に到着。

約5時間半の苦しい登りが報われます。目の前に広がる美しいカールと笠ヶ岳までのルートが一望できます。

【杓子平から笠ヶ岳を望む】



【様々な高山植物が咲き乱れています】



振り返れば穂高連峰が、前方を見ると杓子平のカールと笠新道分岐までのルート。

【穂高連峰】

【笠新道分岐までのルート】



杓子平からは、少し楽になるかと思ったが笠新道分岐までがことのほか厳しい。稜線は見えているのに中々分岐までが長い。

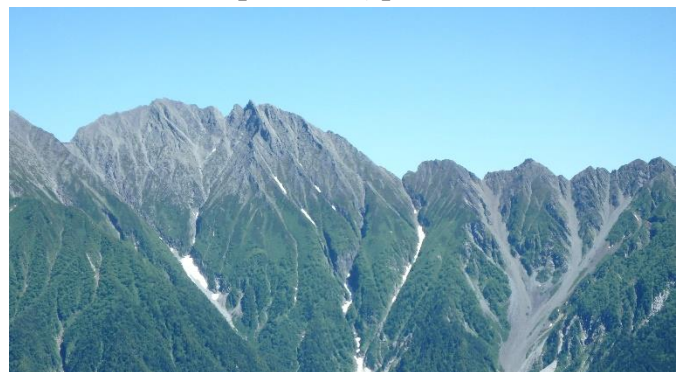
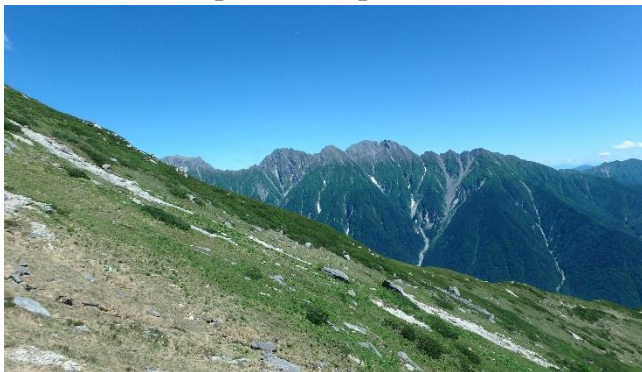
【杓子平】

【焼岳方面】



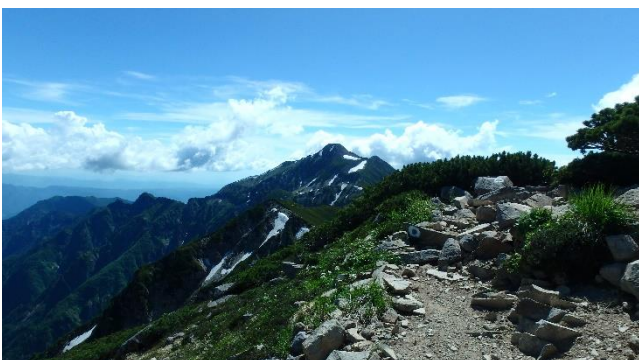
【穂高連峰】

【穂高連峰】



【笠ヶ岳方向】

【稜線はもうすぐ】



【笠新道分岐】

14:45 笠新道分岐にようやく到着。
すでにへトへトです。
笠新道分岐を左に折れる。

ここからは、笠ヶ岳山荘まで稜線沿いに
コースをとる。

遙か前方には目指す笠ヶ岳が見える。
道のりは長い。



【中央に聳えるのが笠ヶ岳】



稜線は、緩やかなアップダウンを繰り返す。雪渓が至る所に残っているかと思えば、一面のお花畑があり、目を楽しませてくれる。

【分厚い雪渓が残る】



【一面のお花畑】



【抜戸岩】

15:30 ピークをいくつか超えて、岩の間を通過するようやく抜戸岩へ到着。

ガイドブックでは30分のところ、疲れのため約45分かかる。

抜戸岩を過ぎると再び急登があり、登り切るとテント場が開ける。



【テント場】

テント場には、すでに約30張のテントが色とりどりのテント。左手に大きな雪渓が残っている。

ここから、山荘までは雪渓のトラバースとガレ場の急登が待ち構えています。

体力の限界を感じながら、最後の力を振り絞って前進。



16:25 笠ヶ岳山荘に無事到着。疲労困憊です。約12時間を要する。宿泊客は、約30名程度。通常100名収容の山小屋ですが、新型コロナウイルスの影響で50名まで人数制限をしています。

夕食は、17:30から。メニューは、ハンバーグカレー、サラダ、お味噌汁でおかわり自由です。部屋割りは、男女別々で、相部屋となりました。トイレは男女兼用のポットン式。使用済みトイレトーパーは、ダンボール箱の中です。

【笠ヶ岳山荘】



18 : 00

夕食後、部屋からの景色
少しガスが出てきました。
前方の穂高連峰は雲の中。

【雲の中の穂高連峰】



18 : 08

奥美濃を震源地とする震度
3、マグニチュード4.2の
地震発生。
大きな揺れを感じました。

4 : 42

昨日は、7時前に就寝し今日
は4時過ぎに起床。
槍ヶ岳をシルエットに見事
な日の出。今日も快晴です。
3年前の10月に笠ヶ岳登頂
したY. Sさん、K. Yさん
は小屋からのご来光。3名は、
山頂にて日の出を迎える。

【槍ヶ岳と日の出】



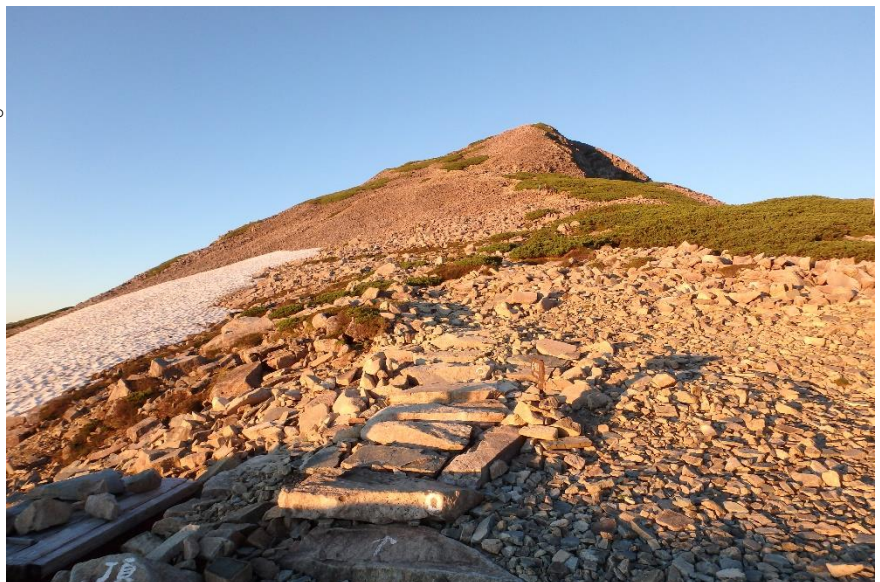
【朝日を浴びる笠ヶ岳】

4 : 55

小屋から朝日を浴びる笠ヶ岳
が緩やかな裾野を広げている。

5 : 00 から朝食。

身支度を整え、再び長い1日
の始まりです。



【5：54 笠ヶ岳山荘前で出発前の記念写真】



本日の行程は、ほとんど下りです。昨日来た道をピストンで、雪渓を横切り、稜線歩き。笠新道分岐からは、杓子平のカールを下り、その後は樹林帯をひたすら笠新道登山口まで。

【5：59 山荘直下雪渓トラバース】

【6：10 稜線歩き】

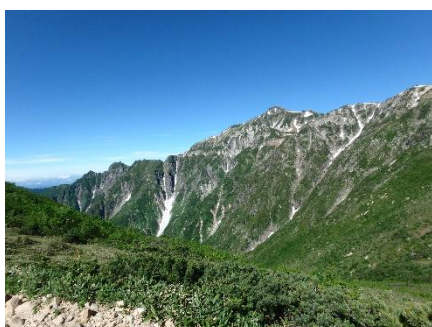
【6：25 抜戸岩】



【7：10 笠新道分岐】

【8：26 杓子平】

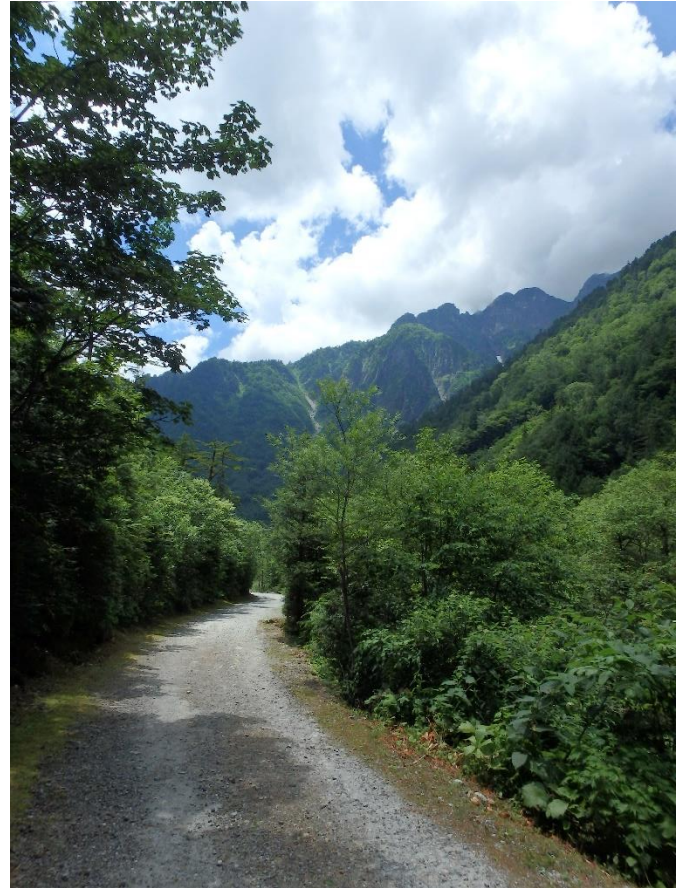
【8：45 笠新道の激下り】



【11：55 笠新道登山口到着】



【新穂高温泉までの長い林道】



体力にゆとりがあるM. Kさんが先に下山し、駐車場から車を新穂高センターまで配車してくれました。残りの全員はへトへトです。

温泉と昼食のため平湯温泉バスターミナルへ向かうが、温泉は昨年11月で閉鎖、レストランは時間外とのこと。やむなく「食事処緑次」で昼食。「ひらゆの森」で入浴。

その後、和歌山に向かうが、旧式ナビゲーションのせいで、本来の飛騨清見ICでなく下呂温泉経由で郡上八幡ICからようやく東海北陸自動車道に乗ることができました。随分時間のロスをしました。その後京奈和道を利用し、順調に23：30無事和歌山到着。

2018年10月の笠ヶ岳山行は、悪天候と寒さに悩まされましたが、今回は、両日ともに快晴に恵まれました。しかしながら日中は暑さに悩まされました。前回は、体調不良により苦しかったのかと思いましたが、体調が良くても非常に苦しい山行でした。

ただ、前回と違い、絶景を心置きなく堪能し一面のお花畑も見ることができ大満足です。燕岳～大天井岳山行では、右から槍・穂高を望みましたが今回は左から槍・穂高を見ることができました。これほど素晴らしい景色を見ることができたので、もう3度目は無いな！と話しました。今の体力ではこれで限界です。

みなさん、いい山ですよ。一度はチャレンジしてみてください。